

特集 ■ 建築業界は AI をどう活用していくのか

今や AI は、SF 映画で描かれる未来の話ではなく、身近なものとなっています。2024年、AI 関連の研究者にノーベル物理学賞と化学賞が授与されました。自然科学部門のノーベル賞が同一分野に贈られるのは同賞の長い歴史の中でも珍しく、それだけ、AI の社会への影響の大きさを印象づけるものとなりました。

建築業界は、製造業や金融業に比べると、業務に AI を活用している企業の割合が低いといわれていますが、少子高齢化により生産年齢人口が減少したことで労働力不足が深刻となっています。このことに加え、2024年 4 月から、建設業にも時間外労働の上限規制が適用され、働き方改革が求められていることを背景に、AI の導入が急速に進んできています。

AI の活用は、これまで手作業で繰り返し行ってきた定型的・反復的な業務を短時間で処理することで、人間はより専門性が高く、クリエイティブな業務に時間と労力を注ぐことができ、生産性の向上や、質の高いサービスの提供を期待するものです。

一方で、AI の導入には高い初期投資が必要であることや、AI が導き出した解が適正かどうかの判断が難しいことなど、安全で倫理的に AI を使う責任も課題として生じています。

本号では、建築業界の様々な分野で実装されている活用事例と今後の展開、そして、AI 活用における問題点などを紹介いたします。

AI の導入に興味を持っている方も、既に活用されている方も、建築業界は AI をどう活用していくのかを考えるきっかけとしていただきたいと思います。